

大館リトルシニアチームが発足しました

少年硬式野球



今年2月、大館に硬式の少年野球チーム「大館リトルシニア」が発足しました。県内で2番目、県北では初めてとなる少年硬式野球チームの誕生は、大館の野球界に新しい風を吹き込みました。発足してまだ半年余りの彼らですが、念願の公式戦初勝利をつかんだというニュースを聞いて、とても楽しみに取材に向かいました。

広報市民リポーターだより
リポーター ぐもと 木次谷邦子さん
(葛原)

野球への情熱が、チーム結成につながった

昨年の夏、「リトルシニアをやってみよう」という大森弘人さん(土目内)と監督の奥村涉さん(谷地町)の思いが膨らんで、チーム設立への動きが始まりました。事務局の布袋屋守さん(緑ヶ丘)も加わって、野球への情熱に燃える3人は、青森や秋田のチームに何度も足を運んで情報を収集したそうです。

地元の高校、大学、社会人で野球を経験してきた方々が、彼らの趣旨に賛同して(ボランティアの)指導者として参加してくれることになりました。

最初は平成19年度からのスタートを考えていたそうですが、他県チームへの入団を考えていた人たちからの「早期にチームを結成して欲しい」という声にも後押しされ、予定より早いスタートとなりました。

何回か設立準備の会議や募集説明会を行い、入団を希望する子供たちも順調に集まり、シ

ズン前の今年2月、晴れて東北連盟への参加が認められました。

グラウンドにお邪魔しました

7月15日(日)、旧大館商業高校グラウンドで練習試合があると聞いて、早速取材に。前日から台風の影響が心配されましたが、天気予報が見事に外れてほぼ快晴。風はあるもののまずまずの野球日和となりました。

練習試合の相手は、弘前チームと仙塩東チーム(宮城県)。迎える大館チームは、初々しい18人の1期生と、元氣いっぱい監督、コーチ、スタッフが勢ぞろい。選手のお父さんたちはグラウンド整備に、お母さんたちは放送やお茶出しなどのお手伝いに駆け付けていました。

最初に私を迎えてくれたのは、選手たちとても元気なあいさつでした。この中にもしかしたら将来のイチローや松坂くんがいるかもしれないと思うと、急にとても頼もしく思えてきました。